

議員特別研修実施報告書

報告議員名	大日向香輝	報告日	平成31年2月15日
調査研究・研修等 名 称	海老名市立図書館・高崎アリーナ視察研修		
実 施 日	平成30年11月14日～15日		
会 場	海老名市立図書館・高崎市役所		
調査研究・研修等の 概 要	14日 海老名市立図書館 視察 15日 高崎アリーナ視察 15日 高崎市役所にて研修 詳細は別紙のとおり		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙のとおり		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

2018年11月14日～15日 視察研修

視察場所

11月14日 海老名市立図書館（神奈川県海老名市）

11月15日 高崎アリーナ（群馬県高崎市）

●海老名市立図書館

海老名市概要 東京から50km 横浜から20km の位置 人口132,718 世帯数56,322（11/1）

昭和60年に建築された図書館を平成27年10月1日改築リニューアル



平成26年 CCC・TRC 共同事業体が指定管理者として中央図書館と有馬図書館の運営を開始

TRC：図書館流通センター CCC：カルチャ・コンビニエンス・クラブ（TSUTAYA・蔦屋書店）

2015年10月より CCC が指定管理 その前に大規模改修しスケルトン化。1階から2階までが図書館だったが、地下1階から4階まで図書館にして、1階に蔦屋書店を配置。4回はプラネタリウムだったがリース切れの為、持ち歩ける機材に変更した。階ごとにコンセプトを設け、敷居を取り払う。

地下：大人の隠れ家

1階：コミュニケーション

2階：ライフスタイル

3階：学びの場

4階：キッズライブラリー

海老名市立中央図書館

EBINA CITY CENTRAL LIBRARY



営業時間は365日 AM9:00~PM9:00

年末年始は毎日外に200人くらいの行列ができる

書店を入りに置くことで季節ごとの違った風景を提供できる

イベント席をオープン空間に設ける。イベントを見せることにより、その光景を見た方のモチベーションが上がるという効果を狙っている



全国的にライブラリー&カフェやブック&カフェが主流である

関東最大の蔵書である

全ての本に IC タグを貼りつけ管理されている。これにより貸し出しも返却も自動化を図ることが出来る
(販売の本が貸出と間違って返却ポストに入っていたことがあった)



効果：いままで図書館を利用してなかった方々が来てくれるようになった

返却サービスは全国どこからでも一律500円で配送できる

全国宅配返却サービスがTカードの普及により可能になった（コンビニ利用）

課題点：図書館と書店の役割分担

図書館はなかなか本をそろえることが出来ない

解決策：海老名市の図書館は雑誌を消耗品費として計上

書店があるため人気の書籍を何冊も用意できる（図書館の価値が高まる）

文具等も販売している（少し良い物がプレゼント等に喜ばれている）

サイン計画：白色のサインは販売 黒色のサインは貸出



「検索」というより「発見」を目的に館内を回遊していただく

図書館の中でデザイナー（プロでは無い）を雇用し、ポスターやディスプレイを頻繁に変えている

イベントを企画しビックネームを四半期に一度程度講演してもらっている

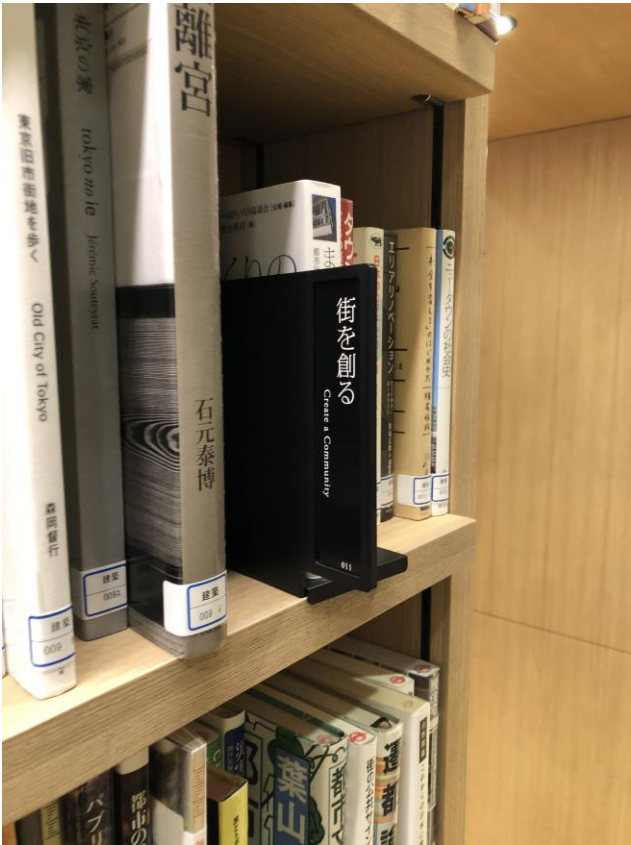
予算は指定管理料に入っていないので都度会議を持つ

コンセプト

「多様性と可能性を育む図書館」

作家等とのコネクションが書店経営の強み

分類方法を「街づくり」など直感性にした



3階の学習席は常に満席になる（テラス席もある）
学習するスタイルが変わり、人と話しながら勉強するようになった



多くの場所を市民に提供するためバックヤードが少なくなった。会議室も無し
ポスターは一切貼らずデジタルサイネージによる広告

4階はキッズライク。入口に貸出用ベビーカーを常設



本棚の角を丸くする等安全面に配慮している
元々プラネタリウムなので天井が丸く子供たちに人気がある



年2回ほどプラネタリウムも実施している

テラス・授乳室を完備

1階～4階直通エレベーターを設置

外国人を採用し、英会話で読み聞かせが出来、外国語で触れ合える

平日来客数 約2,000人 土日来客数 約3,500人

地下はもともと書庫だった

静かな空間

上野本棚は係が脚立で取りだす



ジョイントベンチャーで指定管理する業者もある（カフェ等）
スターバックスはライセンス契約なので自社社員で運営している



・有利な点

イベントに CCC のコネクションを遣える
図書館の価値を高める財力がある
設計時点で関わるにより空間づくりが出来る
契約期間 2016年4月から5年
指定管理料 年間2.4億円 有馬図書館と合わせて3.2億円

・効果

いままでこなかった顧客が来るようになった
顧客が滞在型に変化
自社なので判断のスピードがアップした

・その他

多賀城（宮城）はレストラン&コンビニ、学校支援、移動図書館（復興がキーワード）
武雄は5年のタイミングで昨年10月増築 本館と子供用を分け観光図書館を目指している
連携 全国で6館 海老名市立中央図書館 武雄市図書館（子供含む） 多賀城市立図書館
高梁市図書館 周南市立徳山駅前図書館 延岡市駅前複合施設エンクロス

所感（大日向）

位置は駅前とはいいづらいいほど遠い気がした。中に入るとスターバックス効果か都会的な雰囲気があり、ディスプレイ等綺麗な印象がある。自社システムで本の管理が出来ることと T ポイント提携コンビニでの返却可能な点は、この場所にとどまらず全国展開できる可能性がある。CCC 運営によりイベントが入場無料で出来ることなどは民間ならではだろう。学習する部屋やフリースペースが常に満員という言葉には驚いた。利用者が沢山居るのは喜ばしい事だが、いつもこの状態だと後から来た人は座れなく不便なのではないだろうか。はたして市民の為になっているのか疑問がある。この運営に近い形で地元の人や企業が出来るとは到底思えず、もっと他の形でもサービスできないか検討する必要がある。賛否両論あるとは思いますが、ライブラリーセンターで何をしたいかが重要と感じた。

●高崎アリーナ

※説明資料は別 PDF にてご確認ください。



当初の概算建設費が85～90億に対して、結果工事費・委託費・土地代で約173.5億になったことについて質問したが、率直な気持ちとしては良く議会等で承認を得ることが出来たな～と感じた。たまたま高崎駅前にあった日本製粉(株)の撤退により用地の有効利用と既存施設の老朽化が合致したタイミングをうまく利用出来ている。

あえてネーミングライツを使わず「高崎」を使った市長の思いは評価できた

節約の為、体育館の床材をポリウレタンを使わず木材を使用していたが、ササクレ対策で苦労しているという。また、アリーナ部分の観覧席を壁収納にせずキャスター可動式にし、観覧席の下を有効利用していた。



所感 (大日向)

インフレスライドによる建設費増は避けられないものの、鉄道会社との関係により建設費がおよそ倍になったことには驚いた。当市でもオリパラや大阪万博の関係で増額になる恐れがあるので、しっかりと検証してほしい。節約の為にいろいろな工夫がされているようだが、その分人手や手間がかかるのだという事例に遭遇できた。隣の市にもALSOKぐんまアリーナという大きな施設があるが、すみわけをしっかりと影響も少ないらしい。横手市と由利本荘市にも参考になると思う。

以上